

傾向としても従来の研究の学校体育への傾斜の反省、社会の中でのスポーツの歴史・現状・未来の研究、スポーツと国際関係への新たな照射が生じており、本研究もそうした動向と軌を一にする。③日本人が外国の研究をするという点で依然として論点となる「外国研究論」に一石を投じ、日本の運動も含めたインターナショナルを非ヨーロッパ人の視野で検討し、世界史へのスポーツ運動史論の道すじを示す。④従来のスポーツ史で前面に出なかった（出たとしてもある外国の一部の受売り）歴史で消え去ったもの、忘却されたものの発見と前面に出ているものの再検討による再構成。⑤歴史の中に、国際連帯の精神の発揮あるいはそれに反するものをみる分析視点で史実の明確化につとめること。（本報告は、文部省科学研究費による研究成果の一部の公表である）

2. 両大戦間・戦中期のフランスのスポーツ運動の研究—とくに“体育・スポーツと人民戦線”および“レジスタンス組織「Sport Libre（自由スポーツ）」”に関する史料紹介を中心に—

伊藤 高弘

I. はじめに

今回の報告は、帰国2カ月後の1987年11月3日の仙石原・研究合宿において発表したものの要約紹介である。在外研究の目的と計画については、すでに『研究年報'86』（P. P25-27）において報告したが、本誌と同時期に発刊が予定されている『運動文化研究』へも同種の報告を行なったこともあり、さらに、1988年3月および4月の『体育科教育』へ「私の研究ノート（上、下）」を寄稿したこともあって、小稿では、フランス滞在中および帰国後に入手しえた単行本、論文、史・資料などと、東京へ送稿した“パリ短信”一覧を中心に紹介してみたい。

II. 日仏の「体育・スポーツと人民戦線」—Aと「レジスタンス—とくにスポーツマンのレジ

スタンス」—Bに関する研究動向と水準

II—A.

1. Françoise, Hache.

Der Arbeitersport in Frankreich. Zwei Wendepunkte: 1936 und 1981/ Arnd Krüger/ James Riordan (Hrsg.)

Der internationale Arbeitersport

Der Schlüssel zum Arbeitersport in 10 Ländern, Köln: Pahl-Rugenstein, 1985.

（フランソワーズ・アッシュ／「フランスの労働者スポーツ、二つの転換点：1936年と1981年」、アルント・クリュガー／ジェームズ・リオードン編『国際労働者スポーツ—10カ国の労働者スポーツの鍵』、ケルン・ポール・ルーゲシュタイン、1985.）

2. Marcel, Spivak.

LA POLITIQUE SPORTIVE DU FRONT POPULAIRE; ESSAI D'INTERPRÉTATION/ ICOSH SEMINAR 1986, MAIKO VILLA KOBE.

（マルセル・スピバック／「人民戦線のスポーツ政策：解釈試論」ICOSHセミナー、神戸・舞子、1986.）

3. Silvane, Paoli

"LE SPORT TRAVAILISTE EN FRANCES SOUS LE FRONT POPULAIRE 1934-1939"/ Université de PARIS - PANTHENON - SORBONNE 1984.

（シルヴァーナ・パオリ／「1934年から1939年のフランスにおける労働者スポーツ」、パリ第I大学・ソルボンヌ・1984.）

4. Bernard, Deletang.

"SPORT-HISTOIRE. IDEOLOGIE. L'exemple français du sport travailliste"/ INSEP, 1980.

（ベルナール・ドルタン、「スポーツ、歴史、イデオロギー、フランス労働者スポーツの実例」国立体育・スポーツ研究所、1980.）

5. Françoise, Hache.

"LA PLACE DU SPORT DANS LE

- SYSTÈME NATIONAL - SOCIALISTE,"
Université PARIS VIII, 1986.
(フランソワーズ・アッシュ／「国家社会主義
体制下のスポーツの位置」、パリ第VIII大学、198
6.)
6. Réne, Moustard.
"La FSGT et la Politique du Front Popu-
laire par l'E.P.S. le sport et les loisirs
des travailleurs."
D.i.r.e. N°23, juin 1987.
(ルネ・ムスタール／労働者階級の余暇・スポー
ツと体育に関する人民戦線の政策とFSGT.)
7. Pierre, Mouchot.
"La deuxième guerre mondiale l'occupation,
la Résistance... LA F.S.G.T. DE 1939
DE A 1945,"/ *Sport et plein air* N° 189,
juillet-août 1975.
(ピエール・ムーショ／「第二次世界大戦、占
領、抵抗……1939年から1945年までのFSGT」.)
8. Simone et Auguste GILLOT.
*la vie de AUGUSTE DELAUNE Sportif
émérite, heros de la Résistance*, EDITE
POUR LE 40^e ANNIVERSAIRE DE LA
LIBERATION, 1985.
(シモーヌとオーギュスト・ジロー／レジスタ
ンスの英雄・豊かな経験をもったスポーツマン
としてのオーギュスト・ドロヌの生涯.)
9. William, J.Murray.
"The French Workers' Sports Movement
and the Victory of the Popular Front in
1936" *THE INTERNATIONAL-JOURNAL
OF THE HISTORY OF SPORT*, Vol.4,
No.2, 1987.9
(1936年の人民戦線の勝利とフランス労働者ス
ポーツ運動.)
10. Richard, Holt.
"SPORT AND SOCIETY IN MODERN
FRANCE," St. Antony's College, Oxford,
1981.
11. W. Loth.
"フランス左翼と「労働者階級の統一」1943-1
947"、1987 (唐木園彦訳)
12. J.Tolleneer & E.Box.
"AN ALTERNATIVE SPORT FESTIVAL:
THE THIRD WORKER OLYMPICS ANT-
WERP 1937"/ HISPA, Gubbio, Italy,
1987.5.
(もう一つのスポーツ祭典：1937年の第3回
労働者オリンピック・アンベール大会.)
13. 広田 功「フランス人民戦線の〈文化革命〉
の一側面－有給休暇とく余暇の組織化〉」、
『希望と幻滅の軌跡 反ファシズム運動』、中大
人文科研、1987.
14. 清水重勇『フランス近代体育史研究序説』、
不昧堂、1987.
- II-B-1.
1. F.Hache-(1)
2. B.Deletang-(4) P.P 72-75
3. Simone et Auguste Gillot-(7)
いずれもII-Aを参照されたい。
フランス本国はもとより、わが国においても、
人民戦線とレジスタンスに関する研究は長い歴史
とぼう大な成果を蓄積してきているが、残念なこ
とに、体育・スポーツとA、Bのテーマの結合と
なると、入手しえたものは上記三本だけというこ
とにならざるを得なかった。フランスの歴史・政
治的風土のもとでの体育・スポーツ史の研究動向
それ自身が研究テーマとなるのであるが、気鋭の
F・アッシュにしても、フランス近現代体育・ス
ポーツ史家を代表するB・ドルタンにしても、体
育・スポーツ関係者とレジスタンスに関する史料
はほとんど、FSGT機関誌(『Sport et Plein air』)
からの引用のレベルにとどまっている。フラン
スにおけるレジスタンスに関する研究が、きわめ
て現代的な意義をもちつつ、またいかに困難か
といふことは、「リヨンの殺し屋」といわれたクラ
ウス・バルビー裁判をめぐるフランスの動向と波
紋についてのべた藤村信『夜と霧の人間劇 バル
ビィ裁判の中のフランス』(岩波書店、1988)を

参照。

上記のような歴史的制約を考慮に入れ、体育・スポーツ外のレジスタンス研究の史・資料の入手に努めた。そのうちの代表的なもののみを紹介する。

4. H. Noguères.

Histoire de la Résistance en France, tome 1.2.3.4.5. Robert Laffont, juin 1982.

5. H. Noguères.

La vie quotidienne des Résistance de L'armistice à la Libération, Hachette, novembre 1984.

6. H. Michel.

Paris Résistant, Albin Michel, octobre 1982.

7. l'Humanité.

Les Inconnus de la Résistance, éditions Messidor, mars 1985.

8. *le mouvement syndical dans la résistance*, éditions de la courtille, 1975.

9. A. Tollet (Présentées) et Jean-Claude Poitou,

Les V.O. de la nuit 1940-1944, Les éditions de la vie ouvriers, 1984.

上記のうち、わが国において知られているのは4.H・ヌーゲルの『フランスにおけるレジスタンスの歴史』(ロベール・ラツホン、1982)である。筆者が先行研究の一つとしてとりあげた、加藤・木戸「ヨーロッパにおける対独抵抗運動 1、西ヨーロッパにおける対独レジスタンスフランスを中心に」(『岩波講座 世界歴史 29 現代 6』、1971、P.P 209-239)は、立・行論の軸に、H・ヌーゲル前掲書を位置づけている。この日仏の対照についてはこんご時間をかけなければならないが、フランスにおけるスポーツの位置・役割とH・ヌーゲルのスポーツ把握と関連して、加藤・木戸両氏をはじめとするわが国の歴史学研究とスポーツ運動の関係が、歴史学と歴史教育・国民の歴史意識の形成と同様に問い直されるべき課題をはらんでいると思われる。

II-B-2.

F S Tの機関紙、F S G T統一後の議事録とレジスタンス組織「Sport libre」(自由スポーツ)の機関紙について。

「Le Sport Ouvrier」(F S T機関紙「労働者スポーツ」)

Arch. FSGTには、1923年9月10日、No3から1925年10月20日、No40までが保存され、その一部のコピーおよび全号のマイクロフィッシュ化されたものを入手した。

「Sport」(F S TからF S G T統一後の機関紙)

1934年創刊号から1938年の232号までと全号のマイクロフィッシュ化されたものを入手した。

「Sport libre」

1944年11月4日のN°1から1945年2月16日のN°16までの全寸コピー(ただしN°13欠番)と、マイクロフィッシュ化されたもの。なお、これらはすべて活版印刷分をマイクロフィッシュ化したものであり、別の機会(前掲・研究ノートおよび『スポーツのひろば』1987.10)にのべたが、1944年1月以前のタイプまたは手書きのA4版のものを入手した。

上記のうち、マイクロフィッシュ分は、1988年4月2日、F S G Tから送られてき、成田空港通関後に入手したばかりのものであり、全体として書誌学的整理はこれからの課題である。F S G T全国総会議事録(一部)は1934年から1938年まで。

III. 現代フランスの体育・スポーツ関係史・資料

1. Jean, Zoro.

Image de 150 ANS d'E.P.S. L'EDUCATION PHYSIQUE et SPORTIVE à l'ECOLE en FRANCE, EDITION AMICALE E.P.S. 1986.

2. STAPS (revue des science et techniques des activités physiques et sportives), avril 1980 N°1...mai 1987 N°15. Editée par l'Association pour le développement des connaissances A.P.S. avec le concours du Ministère de l'Education Nationale et des UER-EPS.

3. Marcel, Berge.

A nos marques douze annee de lutte pour L'EPS, SNEP 1984.

4. SNEP (*organe du syndicat national de l'éducation physique de l'enseignement public (professeurs) f.e.n.*)

5. *Pour le sport* (EDITE PAR LA COMMISSION SPORTIVE DU PARTI COMMUNISTE FRANÇAIS) N°1/ FEVRIER 1984 - N°12/ 12 mars 1987.

残念ながら帰国後九ヶ月の時点で、現代フランスの体育・スポーツ関係の資料整理が十分にできていない。一つだけ追加するならばCGT (フランス労働総同盟)・スポーツ委員会 (代表J・シャテル) から送付されてきたCGT機関誌「スポーツと経済」特集号がある。

IV. 東京に送稿した「パリ短信」.

1. 「スポーツマンのレジスタンス—国立レジスタンス博物館 (MRN) を訪ねて」, 「同志会ニュース」(1987.11.15)。
2. 「経済危機・人員削減・失業下のフランス労働者スポーツ運動」, 『スポーツのひろば』1988. 3—本稿は、1987年11月28、29日に開催されたCGT全国討論集会の参加報告。
3. 「第1回国際剣道選手権・パリ大会 (1987.1.31)」, 『スポーツのひろば』, (1987.4)。
4. 「スポーツマンのレジスタンス—『人民戦線と体育・スポーツ』討論集会報告 (1988.3.14)」, 「同志会ニュース」(1987.5)。
5. 「海外短信 <フランス>体育の授業とその周辺」, 『たのしい体育・スポーツ』 (1987.6夏)。
6. 「スポーツの国際連帯とマニフェスタシオン (1987.3.23)」, 『スポーツのひろば』, (1987.7)。
7. 「平和のオリンピック・1987 (1987.3.22)」, 『スポーツのひろば』, (1987.7.)。
8. 「パリ・ラ・ロンド—1987.6.14」, 『スポーツのひろば』, (1987.8)。
9. 「対独レジスタンスとフランスのスポーツマ

ン『自由スポーツ』とA・ドロースのこと」, 『スポーツのひろば』, (1987.10)。

10. 「<研究ノート> 対独レジスタンス期のフランススポーツマンの活動—とくに『自由スポーツ』について」, 「NOVA」(1987.10.15)。

V. おわりに

報告という性格上やむをえないことであるが、資料紹介だけで紙幅を消化してしまった。ベルギー、西独、オーストリー、スイス、イタリアを訪問・見聞のこと。FSGTの関係者—とくにムスタール夫妻、パリV (第5大学) の関係者やMRN館長のA・トレ夫妻との楽しく充実した交流についても紹介したかったが、他日を期したい。

3. セントポール市 (アメリカ・ミネソタ州) におけるコミュニティー・レクリエーション活動の概要とその特徴

川口 智久

◇ セントポール市は合衆国北中央部ミネソタ州に位置し、ミネアポリス市とミシシッピ河をはさみ双子都市 (ツイン・シティーズと呼ばれる) を形成している。セントポールは州都でもあり、また交通、産業、文化等の中心地でもある。しかしこのコーン・ベルト地帯は気象条件 (冬期の寒さ) などで人口の南部サンベルトへの移動が見られ、70年以降漸減の兆しがある (セントポール市70年31万人、80年27万、84年26万、ミネアポリス市44万、37万、36万)。都市の大きさは約136Km² (ミネアポリス143Km²) である。

◇ セントポール市は他の合衆国の都市と同じく公園・レクリエーション課 (Park and Recreation Department) によって市民の文化、スポーツを含むレクリエーション活動が統轄されている。具体的には全市が14の地域に分けられ、それぞれの地区はいくつかのレベルのレクリエーション・センターを持っている。まず第一はコミュニティー・レクリエーション・センターであり、幼児から高